

土木工事特記仕様書

工事名 山梨大学(武田1)ライフライン再生(排水設備)I期工事

山梨大学施設・環境部			
部長	課長	課長補佐	担当
			

土木工事特記仕様書

工事概要

工 事 名	山梨大学(武田1)ライフライン再生(排水施設) I 期工事
工 事 場 所	山梨県甲府市武田四丁目4-37武田1団地構内
完 成 期 限	令和7年3月14日(金)
工 事 内 容	(1)排水工 一式

一般特記事項

総 則	<p>1、この工事の受注者は、国立大学法人山梨大学契約事務取扱規程、国立大学法人山梨大学が定めた工事請負契約基準、現場説明書、特記仕様書13枚、工事数量表、図面57枚、文部科学省土木工事標準仕様書(令和4年版)、文部科学省土木工事施工管理要領(令和3年版)及び工事写真撮影要領に基づき工事を施工する。</p> <p>2、特記仕様書の適用方法</p> <ul style="list-style-type: none">(1) ・印を付した事項は、○印の付した事項のみ適用する。(2) 表中の数字、文字又は記号を記入する事項は、記入してある事項のみ適用する。(3) _____で抹消した編・章及び項目の当該特記事項は、すべて適用しない。(4) 左欄の()内の数字は文部科学省土木工事標準仕様書の該当番号を示す。(5) 特記された材料、製造所、製品名、施工業者等の取扱いは、特記されたもの又は同等以上のものとする。ただし、同等以上のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
-----	--

1章 一般共通事項

(1.2.1) 実 施 工 程 表	<p>契約後20日以内に、実施工程表を作成し、監督職員の承諾を受けること。 なお、実施工程表には、次の内容を含めて作成すること。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 大学行事等による作業不可日や騒音作業不可日(2) 関係者等へ周知が必要な騒音・振動・臭気発生日や通行止め期間等(3) 工種別(舗装撤去・布設替え、管更生、人孔修繕、舗装復旧等)の作業工程(4) その他監督職員が指示した事項 <p>また、毎月5日迄に、前月の工事進捗状況報告書(月間出来高報告書)を発注者が指定する様式で作成し、監督職員へ提出すること。</p>
(1.3.5) 施 工 条 件	<ul style="list-style-type: none">○ 原則として工事時間帯は8:30~17:15とする。 (騒音作業については、9:00~17:00とし、事前に承諾を得ること。)○ 原則、日曜・祝日は工事不可日とする。 <p>※工事休止日等については、現場説明書 別紙 4大学行事に伴う工事休止日についてを参照。</p> <p>※ なお、上記は予定であり、行事予定について変更が生じる可能性があるため、着工前に監督職員と打合せ、作業不可日及び騒音作業不可日を確認すること。</p>

(1.3.10)
 施 工 中 の 環 境
 保 全 等

低騒音型・低振動型
 建設機械

排 出 ガ ス 対 策 型
 建設機械

本工事において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(平成12年法律第100号)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月25日変更閣議決定)」に定める特定調達物品の分野「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準を満たすものを示す。

本工事においては「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関わる規程」(平成9年7月31日建設省告示第1536号 最終改正 平成13年4月9日 国土交通省告示第487号)に基づき国土交通大臣が型式指定を行った低騒音型・低振動型建設機械を使用するものとする。ただしこれにより難しい場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。低騒音型建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」(平成17年法律第51号)に基づく技術基準に適合する機械、または、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付け建設省経機発第249号 最終改正平成14年4月1日付け国総施第225号)」、「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規定」(平成18年3月17日付け国土交通省告示第348号)もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領」(平成18年3月17日付け国総施第215号)に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型機械と同等と見なす。ただし、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。排出ガス対策型建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。

低騒音型・低振動型建設機械、排出ガス対策型建設機械は、次による。

種類	備考
ブルドーザ	ディーゼルエンジン(エンジン出力8kW以上、560kW以下)を搭載したものに限る。
バックホウ	
ホイールローダ	
ホイールクレーン(ラフテレーンクレーン)	
ローラ類(ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ)	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kW以上、260kW以下)を搭載したものに限る。
油圧ユニット(基礎工事用機械で独立したもの)	
空気圧縮機(可搬式)	
発動発電機(可搬式、溶接兼用機を含む)	

ディーゼル車排出ガス
 規制に適合した車両

- ① 受注者は本工事現場で使用し、又は使用される関係車両(以下本工事関係車両という)が、当該工事場所のディーゼル車排出ガス規制条例(以下「排出ガス規制条例」という。)の適用を受ける場合は、これに適合した車両を使用しなければならない。
- ② 受注者は、本工事の施工に先立ち、本工事関係車両の「ディーゼル車排出ガス規制に適合する車両の使用」について、排出ガス規制条例の遵守を施工計画書に記載しなければならない。
- ③ 受注者は、本工事関係車両にディーゼル車を使用する場合には、車検証のコピーを保管し、本工事関係車両を把握しなければならない。
- ④ 受注者は、取締りにより本工事関係車両に違法行為等があった場合には、直ちに監督職員に報告しなければならない。
- ⑤ 受注者は、資機材の搬出入等において、資材納入業者に排出ガス規制条例を遵守させるものとする。

(1.3.11)
 発 生 材 の 処 理 等

再資源化を図るものは、関係法令に従い適切に処理する

- (1) 品名 コンクリートガラ、アスファルトガラ、碎石、発生土

上記以外のものについては関係法令に従い適切に処理する。

- (2) 搬出に先立ち搬出計画書を作成し、監督職員に提出する。

- (3) 日々の搬出量等を取りまとめた土砂運搬搬出調書を作成し、監督職員に提出する。

(1.4.4)
材 料 の 検 査 等

材 料 名	備 考
既製鋼製品類	JIS以外の製品
セメントコンクリート製品	JIS以外の製品

(1.5.4)
一 工 程 の 施 工 の
確 認 及 び 報 告

標準仕様書に定めがあるもの以外で、次に示す工事段階及び事項については、監督職員に施工の確認及び報告をする。

施工の確認及び報告を行う工程	備 考
3章 仮設工	工事測量及び土留め工の完了
4章 土工	埋戻し作業施工時、作業土工の完了
6章 無筋・鉄筋コンクリート	コンクリートの打設の完了 型枠工の完了
7章 舗装工	路盤工及びインターロッキングブロック 舗装工の完了
9章 排水工	管布設工及び管更生工の完了 柵・マンホール布設工及び修繕工の完了
13章 取りこわし及び舗装補修	既設管渠等の取りこわしの完了

(1.7.1)
完 成 時 類
提 出 書 の

○ 完成図 ○ 保全に関する資料

(1.7.2)
完 成 図

工事完成後提出する完成図等の種類及び提出部数は下記による。

種類	体裁等	部数
完成図	原図(A1版)	1部
〃	製本(A3版黒表紙金文字入り)	2部
〃	仮製本(A1版、A3版)	各2部
施工図	原図(A1版)	1部
〃	仮製本(A1版)	2部
官公庁届出書類	製本	2部
諸手続き書類(写)	製本	2部
工事写真帳	電子媒体 紙媒体(ファイル綴じ)	1部

CADデータ ○ 有り

本工事は、次の書類について電子納品の対象とする。
完成図、工事写真、完成写真

貸与する設計図のCADデータ著作者名：山梨大学、ファイル形式：DXF、JWW

貸与条件：貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため
以外に使用しないこと。

提出方法：CD-R
ファイル形式：完成図 JWWデータ・PDFデータ
工事写真・完成写真 JPEGデータ

(1.7.3)
保 全 に 関 する 資 料
監 督 職 員 事 務 所

保全に関する資料 提出部数 3部

監督職員事務所の設置 ・ 有り ○ 無し

2章 材料

(2.2.1)
盛土・埋め戻し土

本工事に使用する盛土・埋め戻し土は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
砂	砂質土	埋戻工すべて	

(2.3.7)
基礎材料等

本工事に使用する基礎材料等は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
砂	砂質土	管基礎工	
再生クワッシュラン	RC-40	マンホール基礎工 樹基礎工	G

(2.3.8)
路盤用材料

本工事に使用する路盤用材料等は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
再生クワッシュラン	RC-40	舗装工	G

(2.6.7)
鍛鋼品・鋳鋼品
及び鋳鉄品

本工事に使用する鍛鋼品・鋳鋼品及び鋳鉄品は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
下水用鋳鉄製 マンホール蓋	φ 600 T-14	マンホール工	浮上防止形
下水用鋳鉄製 樹蓋	丸枠用 φ 350 T-2・T-8	樹工	水封形 汚水・排水(表示入り)
下水用鋳鉄製 樹蓋	丸枠用 φ 400 T-2・T-8	樹工	水封形 汚水・排水(表示入り)
下水用鋳鉄製 樹蓋	丸枠用 φ 500 T-2・T-8	樹工	水封形 汚水・排水(表示入り)
下水用鋳鉄製 樹蓋	丸枠用 φ 600 T-2・T-8	樹工	水封形 汚水・排水(表示入り)
下水用鋳鉄製 樹蓋	角枠用 φ 300 T-2・T-8	樹工	水封形 汚水・排水(表示入り)
下水用鋳鉄製 樹蓋	角枠用 φ 450 T-2・T-8	樹工	水封形 汚水・排水(表示入り)

※蓋表示については「汚水＝汚水系統」、「排水＝実験排水系統」とする。

(2.8.2)
セメント

本工事に使用するセメントは、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
高炉セメントB種	JIS R 5211	モルタル工	G
高炉セメントB種	JIS R 5211	コンクリート工	G

(2.9.2)
設計基準強度等

本工事に使用するコンクリートの設計基準強度等は、次による。

一般	設計基準強度	最大骨材寸法	スラブ	水セメント比	単位セメント量
	18N	25mm	8cm、12cm	60%以下	270kg/m ³
共通事項	混和材			セメントの種類	塩化物含有量
	-			(2.8.2)による	0.3kg/m ³ 以下

(2.10.3)
セメントコン
クリート製品
(JIS規格品以外)

本工事に使用するセメントコンクリート規格品(JIS規格品以外)は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
下水道用鉄筋 コンクリート製 組立マンホール	1号 (I種)	マンホール工	JSWAS A-11
鉄筋コンクリート製 汚水樹	φ 300・φ 400 φ 500・φ 600	樹工	住宅公団型 都市再生機構型

(2.12.1)
アスファルト混合物

本工事に使用するアスファルト混合物は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
再生密粒度	13	舗装工	

アスファルト混合物の事前審査制度の認定を受けた混合物は、認定証の写しを事前に提出することによって、材料の基準試験に代えることができる。

(2.13.1)
インターロッキングブロック

本工事に使用するインターロッキングブロックは、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
インターロッキングブロック	標準 厚80mm	舗装工	2色合せ(既設合せ)

(2.16.3)
区画線

本工事に使用する区画線は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
区画線	熔融式 JIS K 5665 3種	区画線工	15cm幅

(2.16.5)
合成樹脂製品

本工事に使用する合成樹脂製品は、次による。

材料名	規格・寸法等	使用工種	備考
下水道用硬質塩化ビニル管	φ100、φ150	管きよ工	JSWAS K-1

9章 排水

本工事に使用する工法は、次による。

工種	工法	備考
管渠内面被覆工	自立管形成工法 φ150、φ200 取付管ライニング工法 φ100、φ125、φ150 φ200、φ250	(公財)日本下水道新技術機構認定品 FFT-S工法 オールライナーHM工法 同等品以上 (公財)日本下水道新技術機構認定品 スルーリング工法 FRP光硬化取付管ライニング工法 同等品以上 (公財)日本下水道新技術機構の建設技術審査証明を取得している工法とする。 施工に当たり、施工前管渠内調査(TVカメラ調査を含む)・事前処理・管渠内洗浄を行うこと。 施工前管渠内調査結果及び管厚計算結果を監督職員に報告のうえ、更生材の厚さについて監督職員の承諾を受けること。 事前調査結果報告書及び管厚計算書は1部提出のこと。 施工完了後は、出来形確認及び性能確認試験を行い監督職員に報告すること。 出来形報告書及び品質管理報告書を1部提出のこと。

工 事 数 量 表

名 称	摘 要	数量	単位	備 考
1. 仮設工				
1 1 交通管理工				
交通誘導警備員	B	384.0	人	
1 2 水替工				
開削・ポンプ運転工	作業時排水 発動発電機ポンプ1台	17.0	日	
更生・潜水ポンプ運転工		75.0	日	
工事用水中モータポンプ(潜水ポンプ) 口径50mm全揚程10m		123.0	日	
工事用水中モータポンプ(潜水ポンプ) 口径100mm全揚程10m		123.0	日	
工事用水中モータポンプ(潜水ポンプ) 口径100mm全揚程10m		123.0	日	
止水プラグ75		123.0	供用日	
止水プラグ100		123.0	供用日	
止水プラグ125		123.0	供用日	
止水プラグ150		123.0	供用日	
止水プラグ200		123.0	供用日	
止水プラグ250		123.0	供用日	
ポンプ据付・撤去工		102.0	現場	
2. 管きよ工(開削)				
2 1 管路土工(管きよ工)				
管路掘削		21.3	m ³	
管路埋戻(管周・管頂)	購入土	8.0	m ³	
管路埋戻	購入土	10.4	m ³	
発生土処理		23.7	m ³	
発生土処分費		23.7	m ³	
2 2 管布設工				
硬質塩化ビニル管設置工(材工共)100mm	施工規模20m以上	38.5	m	
硬質塩化ビニル管設置工(材工共)150mm	施工規模20m未満	5.2	m	
継手類 マンホール可とう継手 貼付	塩ビ管100mm	14.0	個	
継手類 マンホール可とう継手 貼付	塩ビ管150mm	4.0	個	
埋設標識シート	W=300ダブル	42.0	m	
2 3 管基礎工				
砂基礎工(手間)	機械施工 施工規模10m ³ 未満	3.3	m ³	
砂	クッション用	3.5	m ³	
2 4 管路土留工				
土留工	軽量鋼矢板工	1.0	式	
仮設材運搬費	製品長12m以内 距離10km 割増無	2.7	t	

工 事 数 量 表

名 称	摘 要	数量	単位	備 考
3. 管きよ更生工				
3 1 管渠内面被覆工(反転・形成工法)150mm				
更生材料	t=4mm	112.8	m	
反転・形成工(汚1-21)	既設管径150mm	15.5	m	
反転・形成工(汚1-27)	既設管径150mm	17.4	m	
反転・形成工(汚1-28)	既設管径150mm	18.1	m	
反転・形成工(汚1-34)	既設管径150mm	25.9	m	
反転・形成工(実1-5)	既設管径150mm	14.8	m	
反転・形成工(実1-93)	既設管径150mm	15.8	m	
硬化・形成工(汚1-21)	既設管径150mm	15.5	m	
硬化・形成工(汚1-27)	既設管径150mm	17.4	m	
硬化・形成工(汚1-28)	既設管径150mm	18.1	m	
硬化・形成工(汚1-34)	既設管径150mm	25.9	m	
硬化・形成工(実1-5)	既設管径150mm	14.8	m	
硬化・形成工(実1-93)	既設管径150mm	15.8	m	
本管口切断工		12.0	箇所	
本管口仕上工		12.0	箇所	
エポキシ樹脂パテ(管口仕上げ材)CC-A・CC-B淡彩		10.6	Kg	
仮設備設置工		6.0	箇所	
仮設備撤去工		6.0	箇所	
3 2 換気工(反転・形成工法)150mm				
換気設備工		6.1	日	
3 3 管渠内面被覆工(反転・形成工法)200mm 呼び径 φ 200mm				
更生材料	t=4mm	70.7	m	
反転・形成工(汚2-30)	既設管径200mm	15.2	m	
反転・形成工(実1-106)	既設管径200mm	17.0	m	
反転・形成工(実1-109)	既設管径200mm	15.7	m	
反転・形成工(実1-110)	既設管径200mm	19.1	m	
硬化・形成工(汚2-30)	既設管径200mm	15.2	m	
硬化・形成工(実1-106)	既設管径200mm	17.0	m	
硬化・形成工(実1-109)	既設管径200mm	15.7	m	
硬化・形成工(実1-110)	既設管径200mm	19.1	m	
本管口切断工		8.0	箇所	
本管口仕上工		8.0	箇所	
エポキシ樹脂パテ(管口仕上げ材)CC-A・CC-B淡彩		9.4	Kg	
仮設備設置工		4.0	箇所	
仮設備撤去工		4.0	箇所	

工 事 数 量 表

名 称	摘 要	数量	単位	備 考
3 4 換気工(反転・形成工法)200mm				
換気設備工		4.4	日	
3 5 取付管更生工(既設管径100mm)材料費				
更生材料	t=2.0mm	16.5	m	
更生材料	t=2.5mm	40.3	m	
更生材料	t=3.0mm	72.2	m	
3 6 取付管更生工(既設管径100mm)更生工				
準備・後片付け工	既設管径100mm	17.0	セット	
ライニング管内挿入工	5.0m未満 既設管径100mm	8.0	箇所	
ライニング管内挿入工	5.0m～8.0m 既設管径100mm	7.0	箇所	
ライニング管内挿入工	8.0m以上 既設管径100mm	2.0	箇所	
ライニング硬化養生工	5.0m未満 既設管径100mm	8.0	箇所	
ライニング硬化養生工	5.0m～8.0m 既設管径100mm	7.0	箇所	
ライニング硬化養生工	8.0m以上 既設管径100mm	2.0	箇所	
ライニング管口切断仕上工		34.0	箇所	
3 7 取付管更生工(既設管径125mm)材料費				
更生材料	t=3.5mm	4.5	m	
3 8 取付管更生工(既設管径125mm)更生工				
準備・後片付け工	既設管径125mm	1.0	セット	
ライニング管内挿入工	5.0m未満 既設管径125mm	1.0	箇所	
ライニング硬化養生工	5.0m未満 既設管径125mm	1.0	箇所	
ライニング管口切断仕上工		2.0	箇所	
3 9 取付管更生工(既設管径150mm)材料費				
更生材料	t=3.0mm	25.9	m	
更生材料	t=3.5mm	81.7	m	
更生材料	t=4.0mm	142.4	m	
更生材料	t=4.5mm	33.4	m	
3 10 取付管更生工(既設管径150mm)更生工				
準備・後片付け工	既設管径150mm	30.0	セット	
ライニング管内挿入工	5.0m未満 既設管径150mm	7.0	箇所	
ライニング管内挿入工	5.0～8.0m 既設管径150mm	13.0	箇所	
ライニング管内挿入工	8.0m以上 既設管径150mm	10.0	箇所	
ライニング硬化養生工	5.0m未満 既設管径150mm	7.0	箇所	
ライニング硬化養生工	5.0～8.0m 既設管径150mm	13.0	箇所	
ライニング硬化養生工	8.0m以上 既設管径150mm	10.0	箇所	
ライニング管口切断仕上工		60.0	箇所	

工 事 数 量 表

名 称	摘 要	数 量	単 位	備 考
3 11 取付管更生工(既設管径200mm)材料費				
更生材料	t=5.5mm	58.3	m	
更生材料	t=6.0mm	9.4	m	
更生材料	t=6.5mm	116.6	m	
3 12 取付管更生工(既設管径200mm)更生工				
準備・後片付け工	既設管径200mm	16.0	セット	
ライニング管内挿入工	5.0~8.0m 既設管径200mm	8.0	箇所	
ライニング管内挿入工	8.0m以上 既設管径200mm	8.0	箇所	
ライニング硬化養生工	5.0~8.0m 既設管径200mm	8.0	箇所	
ライニング硬化養生工	8.0m以上 既設管径200mm	8.0	箇所	
ライニング管口切断仕上工		32.0	箇所	
3 13 取付管更生工(既設管径250mm)取付管計測工				
取付管内計測工 800mm未満	既設管径250mm	3.0	箇所	
3 14 取付管更生工(既設管径250mm)取付管更生工				
取付管更生工	既設管径250mm	1.0	日	
3 15 取付管更生工(既設管径250mm)更生材料費				
更生材料	250mm t=7mm	27.9	m	
3 16 取付管更生工(既設管径250mm)付帯工				
ます管口処理工		6.0	箇所	
3 17 準備工				
本管更生工 事前				
管きよ内洗浄工		174.5	m	
本管TVカメラ調査(内径150~800mm未満)(0.3回/m)		174.5	m	
モルタル等除去工(木根)		4.0	箇所	
パッカー工	既設管径200mm	4.0	箇所	
取付管更生工 事前				
管きよ内洗浄工		505.3	m	
取付管TVカメラ調査	既設管径150mm未満	18.0	箇所	
本管TVカメラ調査(内径150~800mm未満)(0.3回/m)		424.1	m	
モルタル等除去工(モルタル)		3.0	箇所	
モルタル等除去工(木根)	既設管径125mm	1.0	箇所	
モルタル等除去工(木根)	既設管径150~200mm	19.0	箇所	
パッカー工	既設管径200mm	5.0	箇所	
パッカー工	既設管径250mm	1.0	箇所	

工 事 数 量 表

名 称	摘 要	数量	単位	備 考
4. 既設マンホール・ます改築工				
4 1 管路土工				
管路掘削		118.3	m ³	
管路埋戻	購入土	94.6	m ³	
発生土処理		131.6	m ³	
発生土処分費		131.6	m ³	
4 2 管路土留工				
土留工	軽量鋼矢板工	1.0	式	
4 3 マンホール工				
マンホール工	組立1号マンホール φ 900mm	4.0	箇所	
柵工	円形汚水柵 φ 300mm	1.0	箇所	
	円形汚水柵 φ 400mm	4.0	箇所	
	円形汚水柵 φ 500mm	27.0	箇所	
	円形汚水柵 φ 600mm	1.0	箇所	
流入管削孔工	HP100mm	13.0	箇所	
流入管削孔工	HP150mm	9.0	箇所	
マンホール底部工		33.0	箇所	
ふた据付工	マンホール用	67.0	箇所	
	柵用	94.0	箇所	
5. 既設マンホール修繕工				
5 1 修繕工	マンホール用			
モルタル上塗り	配合1:2 厚さ2cm	3.7	m ²	
6. 付帯工				
6 1 舗装破碎工				
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	416.9	m	
	コンクリート舗装版 15cm以下	114.2	m	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 15cm以下	5588.9	m ²	
	インターロッキングブロック	19.2	m ²	
	コンクリート舗装版 15cm以下	40.6	m ²	
運搬	アスファルト殻	279.8	m ³	
	インターロッキングブロック	1.5	m ³	
	コンクリート殻	6.1	m ³	
処分費	アスファルト殻	279.8	m ³	
	コンクリート殻(無筋)	1.5	m ³	
	コンクリート殻(有筋)	6.1	m ³	

工 事 数 量 表

名 称	摘 要	数量	単位	備 考
6 2 管路土工(付帯工)				
管路掘削		0.3	m ³	
発生土処理		0.3	m ³	
発生土処分費		0.3	m ³	
6 3 アスファルト舗装復旧工				
表層	t=5cm	5441.0	m ²	
下層路盤	t=15cm RC-40	1.8	m ²	
6 4 ブロック舗装復旧工				
インターロッキングブロック工	t=8cm	16.1	m ²	
上層路盤	t=2cm 敷砂	0.4	m ³	
下層路盤	t=15cm RC-40	16.1	m ²	
6 5 コンクリート舗装復旧工				
コンクリート舗装	20cm未満	29.8	m ²	
下層路盤	t=15cm RC-40	25.9	m ²	
6 6 砂利道舗装復旧工				
下層路盤	t=15cm RC-40	10.1	m ²	
6 7 アスファルト舗装仮復旧工				
表層	t=5cm	144.2	m ²	
下層路盤	t=15cm RC-40	144.2	m ²	
6 8 コンクリート舗装仮復旧工				
表層	t=5cm	3.3	m ²	アスファルトにて仮復旧
下層路盤	t=25cm RC-40	3.3	m ²	
6 9 区画線工				
区画線設置(外側線)	実線15cm(白色)	130.6	m	
区画線設置(ゼブラ線)	実線15cm(黄色)	55.5	m	
6 10 路側工				
歩車道境界ブロック撤去	A種(150/170/200/600)	15.7	m	
歩車道境界ブロック据付工	A種(150/170/200/600)	15.7	m	
6 11 排水構造物設置撤去工				
L形側溝撤去・据付工	250型	19.8	m	
	300型	1.0	m	
U形側溝撤去・据付工	300型(落蓋式)	0.6	m	
6 12 道路付属物設置撤去工				
横断・転落防止策撤去		15.8	m	
横断・転落防止策設置工(手間)		15.8	m	
根巻きコンクリート設置		8.0	箇所	

